

科名 外科  
 対象疾患名 CLDN18.2陽性の治癒切除不能な進行・再発胃癌  
 レジメン名 ピロイ+mFOLFOX6(初回)

Rp	形態	ルート	薬品名	投与量	時刻・コメント	1	2	…	14
1	CVポート メイン3-①		生食	500mL	ルートキープ 残破棄可	↓			
2	CVポート 側管①		パロノセトロンバッグ アロカリス ファモチジン ポララミン デキサート	0.75mg 235mg 20mg 5mg 9.9mg	30分かけて	↓			
3	CVポート 側管②		ビロイ 注射用水 生食 生食	800mg/m <sup>2</sup> 5mL 250mL 500mL	50mL/1h→100mL/1hr→150mL/1hr→200mL/hr 投与開始後15分経過観察。 総液量がビロイ溶解液量の10倍となるようにする。	↓			
4	CVポート メイン3-②		レボホリナート注 5%ブドウ糖液	200mg/m <sup>2</sup> 250mL	2時間かけて	↓			
5	CVポート 側管③		オキサリプラチニ注 5%ブドウ糖液	85mg/m <sup>2</sup> 250mL	2時間かけて	↓			
6	CVポート 側管④		フルオロウラシル注 5%ブドウ糖液	400mg/m <sup>2</sup> 50mL	急速静注 3~5分	↓			
7	CVポート メイン3-③		フルオロウラシル注 生理食塩液	2400mg/m <sup>2</sup> mL*	46時間持続静注 シェアフューザA	→			

※生理食塩液の量は5-FUの量により決定する。

★1クール=14日

～MEMO～

催吐レベル4(90%以上)

<ピロイ>

投与中から悪心嘔吐出現し、投与速度が早いと悪心嘔吐の頻度が高まる。(初回に多い)

投与中の悪心嘔吐出現時の対応は別紙参照

規定投与速度での合計時間が1時間を超えたら次の速度へUp

無菌性の観点から室温にて希釈後6時間以内に投与完了。安定性は30°Cで16時間まで安定。

<オキサリプラチニ>

オキサリプラチニは必ず5%ブドウ糖で希釈。(薬効がおちる。)

デキサート注は6.6~19.8mgで選択可。

オキサリプラチニのアレルギー反応は他の薬剤と出現形態が違うので注意する。

(現在は4~16クール目、投与30分経過後に出現することが多いと報告されている。2007.10)

<>